

小中高の系統性

高等部 ・自分の好きな運動を選んで実践できる ・様々な種目への取組(選ぶ) ・チームで作戦会議・仲間との協力、共感 ・体力の向上(筋力)	・生活に必要な健康・安全に関する事柄を理解し、将来の生活を豊かにする態度の育成 【保健】
中学部 ・運動の経験を広げる ・ルールのある運動 ・自分の身体・動きへの気づき ・相手を意識した取組 ・体力の向上(持久力)	・思春期における健全な心身の育成 【保健】
小学部 ・運動の楽しさ、喜びを感じ「好き」になる ・動きの基礎、基本(走る、跳ぶ、投げる、物の操作) ・友だちと一緒に ・体力の向上(調整力)	・体の成長や健康に興味をもつ 【生活科】

ポートボールを通して

- 自分の体や動きへの理解
- 個人的技能と集団的技能
- 達成感や自信・悔しさ
- ゲームの活性化
- 様々な感情の表出

生徒の実態について

中学部生徒 18人



- ・運動が得意、不得意に関わらず、楽しみ、意欲的
- ・新しい取り組みにも積極的



- ・ボールを見ていなかったり、体の使い方がぎこちなかったりするなど、スムーズな動作が難しい
- ・相手や自分の動きなどに注目することが難しい

目標

- 1 基本的なボール操作や相手の動きに応じた攻防を展開することができる。(知識・技能)
- 2 自分で考えたり、友だちや教師の意見や動きを参考にしたりして、運動することができる。(思考・判断・表現)
- 3 友だちと協力して活動に取り組み、勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

育成したい力

他者へ意識を向け、多様性を尊重したり、互いのよさを生かして協働したりする習慣や態度

指導計画(全12回)

第1次(5時間) 攻め・守りの技を身につけよう	ドリブル・パス・シュート・フェイント 守りの技能 ミニゲーム(ドリブル鬼ごっこ)
第2次(6時間) チームで練習しよう	チーム練習(シュート、作戦会議など) ミニゲーム(ドリブル鬼ごっこ) ハーフコートゲーム
第3次(1時間) ポートボール大会をしよう	ポートボール大会 これまで習得した技などを使い、3人1組のチームで対戦

大学の先生方からアドバイス



タオル体操(可動域の広がり)
ホワイトボードの活用(視覚化、言語化)
運動量の確保
自然に出る運動や動きを取り入れる
ルールの工夫
攻防についてわかりやすい動き
安心して感情表出できる雰囲気

工夫点(動きへのイメージ・内面へのアプローチ)

ワクワクする 感じる・表現する

a) 授業の構成

準備運動・ゲーム→課題の提示・思考・実践→振り返り・称賛と流れを一定にし、見通しを持ちやすくする



b) 準備運動(タオル体操)

タオルを使った回旋運動、ペアでタイミングを合わせて動くなど、自由な動きを通して可動域を広げる

c) ゲーム(とおせんぼゲーム・ドリブルおにごっこ)

「ボールを取られないためには～」、「空いている場所に動くにはどうしたらいいか」などの課題を提示。考えた動きをゲームで取り入れる

d) 安心して活動できる雰囲気づくり・声かけ

失敗しても、認め、ほめ、励ます雰囲気、仲間づくり

e) 称賛(良い動き・応援)

「ナイスプレイ」「ナイス応援」の生徒の紹介(具体的な動きや声掛け)

思考して動く

基礎的な動きの習慣

f) 動きへのアプローチ①(焦点化、鏡、言語化)

姿見を用いて、ドリブル時の手の動きや適度な高さなどを確認

朝の会での学習

授業時の様子をVTRを見て振り返り、友だちの良い動きに着目し、気づきを促す



h) 課題の提示・思考・実践・活用

ドリブルやチェストパスの基礎的な動きを練習。習得した動きや考えた動きを実践。

仲間を意識・協力 攻め・守りのイメージ

試合を楽しむ

i) 動きへのアプローチ②(ホワイトボード)

チーム内の各個人の動きや戦術を考える

j) メンバーの組み合わせ

技術面や相性を基に、縦割りで構成



k) ルールの工夫(ゴールマン、カゴ、攻めと守り)

ゴールマン・カゴは、教師が担当。シュートもしくはボールを取られた場合は、攻めと守りを交代する

成果

習得 活用 探求

準備運動(タオル体操)

腕回し、高く投げてキャッチなど、自由な動きの中で可動域が拡大



パス練習(ペア練習)

チェストパスの高さや押し出す強さ、バウンドの位置、パスのタイミングを考え、動きへつなぐ



ドリブルやパスの動きがよくなり、攻防がわかるようになった。

ドリブル鬼ごっこ

ボールを取られない動き、ドリブルの高さを考えた動きを実践。楽しく取り組み、動きも活発。



VTRでの振り返り(朝の会での学習)

友だちの良い動きを見て気づき、動作を言葉で表現したり、体を動かしたりする

ホワイトボードでの客観視

空いたスペースを見つけて走るか、パスをするかを検討。一人ひとりの動きをより明確化

体の動かし方やボールの扱いを意識し(自ら・友だちを見て・意見をとり入れて)動きを工夫するようになった。

チーム練習(3人1組)

空いたスペースへ走るなど、役割が明確化。攻防(ボールを上下左右に動かす)し、仲間と協力して、シュートを決める



仲間と勝利を目指す、悔しがる、といった仲間意識の高まりが見られた。楽しんで運動に取り組む姿、活気があった

新体力テストのハンドボール投げ記録に伸び(18人中10人)

課題

- 集団の中の個への対応 → 全体とグループ別活動
- 目標の立て方 → 育成したい力を明確に
- 授業時間が短い → 時期単元でまとめどり

生徒の実態に合った必然性を仕組み、主体的な動きを引き出す

豊かなスポーツライフの実現

運動の経験を広げる、ルールのある運動、自分の身体・動きへの気づき、感情(喜怒哀楽)相手を意識した取組、体力の向上(持久力)